

### 見学の皆様へのお願い

- 段差が多くありますので足元にご注意ください。
- 展示品などには手をふれないでください。
- 係員の指示に従ってください。
- 危険な行為や他人の迷惑となる行為はしないでください。
- 敷地内での喫煙、飲食はご遠慮ください。

### 公開日

- 毎週日曜日

**午前9時から午後4時30分まで**

※年末年始（12月28日～1月4日）及び栗橋文化会館（イリス）が休館の日は閉館となります。

- 5人以上の団体で、平日に見学を希望される場合は、事前にお申し込みください。

**問合せ 久喜市文化振興課**

**電話 0480-58-1111(代) 平日のみ**

久喜市指定有形文化財

# よしだけみつか 吉田家水塚



文化財を大切にしましょう

**久喜市**

## 1 水塚について

水塚（みづか）は「みづか」ともいいます。洪水に備えて屋敷内に盛り土をして築いた高台、又はその上に築いた建物をあわせていうこともあります。水害の多かった関東地方の低地部に多く見られます。

久喜市内には、平成 25 年 12 月末現在、姿をなくしたものも含め 230 箇所の水塚が確認されています（栗橋地区 114、菖蒲地区 96、鷲宮地区 19、久喜地区 1）。

吉田家水塚は、市内に残る商家の水塚としては唯一と考えられており、栗橋宿の歴史と生活の知恵を伝える貴重な歴史的資料として、平成 20 年 6 月 26 日に栗橋町の文化財に指定されました。

平成 16 年から始まった利根川堤防強化対策事業に伴い、移転が必要となったことから、国の補償費を財源に、平成 24 年 3 月栗橋文化会館敷地内に移築・復元されたものです。

## 2 塚の概要

吉田家水塚は、大谷石を積んだ高さ約 2m の塚の上に 2 棟の蔵が並んでいます。塚の大きさは東西 21.5m、南北 13.5m で、広さは約 290 m<sup>2</sup> あります。

蔵は入口に近い方から、大蔵（おおくら）、向う蔵（むこうぐら）と呼ばれています。

## 3 蔵の概要

### 【大 蔵】

- 築造年：江戸時代末期
- 規 模：間口 6.3m × 奥行き 3.6m
- 構 造：土蔵造り 2 階建て、切妻屋根、棧瓦（さんがわら）葺き、下屋付
- 延べ床面積：54.4 m<sup>2</sup>（約 16.5 坪）
- 収納物：1 階には布団や冠婚葬祭用の食器、2 階には上等な布団や貴重品

### 【向う蔵】

- 築造年：明治 37 年（1904）
- 規 模：間口 9.1m × 奥行き 5.8m
- 構 造：土蔵造り 2 階建て、切妻屋根、棧瓦葺き、下屋付
- 延べ床面積：93.6 m<sup>2</sup>（約 28.5 坪）
- 収納物：1 階には金物などの商品、2 階には節句用品など

## ＜吉田家水塚の概要＞

所在地	久喜市伊坂 1562（旧所在地：久喜市栗橋北 2-5-12）		
水塚面積	290.25 m <sup>2</sup>	延床面積	148.01 m <sup>2</sup>

## ＜吉田家水塚の規模＞

蔵名	1 階部分	2 階部分	計（m <sup>2</sup> ）	間口（m）	奥行（m）
大蔵	31.23	23.14	54.37	6.363	3.606
向う蔵	52.33	41.31	93.64	9.090	5.757
合計	83.56	64.45	148.01		

## 4 栗橋宿の歴史

栗橋宿は、下総国葛飾郡元栗橋（茨城県五霞町）の住人池田鴨之介（いけだかもすけ）、並木五郎平（なみきごろうべい）らが、関東郡代伊奈忠次の命を受け、今から約 400 年前の慶長年間（1596～1615）から開発したと伝えられ、開発当初は「新栗橋」「上河辺（かみかわべ）新田」と呼ばれていました。

寛永 13 年（1636）に日光道中が開通すると、栗橋宿は江戸から 7 番目の宿として、また関所（正式には「房川渡中田関所（ぼうせんわたしななかだせきしよ）」と渡船場（房川渡し）が置かれた宿場として賑わいました。

今から約 170 年前の天保 14 年（1843）には、家数 404 軒、人口 1,741 人、本陣・脇本陣各 1 軒、旅籠（はたご）25 軒を数えました。

## 5 吉田家の来歴

吉田家の祖先は、池田氏らに次ぐ第 2 陣として、元栗橋から移住したと伝えられ、現在の当主で 13 代目を数えます。

先祖は代々、古鉄商、豊表商を商ってきましたが、昭和 22 年のカスリーン台風後は金物商に商売替えし、屋号を「豊屋金物店」と称しました。

吉田家旧屋敷の建物の配置は、宿場の道沿いに 2 棟の土蔵の店舗、その奥に住居、さらに納屋があり、最奥の水塚上に大蔵と向う蔵の 2 棟と稲荷社がありました。間口が狭く奥行きの深い敷地に、連続して建物を建てる形式は、宿場町の町屋の特徴をよく伝えていました。

昭和 22 年のカスリーン台風のときには、近所の住民 20 人ほどが、この水塚に避難し数日間を過ごしたといっています。